

2011.06.26 聖別会

IMMANUEL

インマヌエル
中目黒キリスト教会
聖別会マンスリー



2011年

<ジョン・オズワルト著 『聖』を生きる人々(最終講)>

第13章 『聖き』を歩む人の問題点

聖句: 「わたしが聖であるから、あなたがたも聖でなければならない。」
(1ペテロ1:16)

A. 聖い生涯を歩む人々の陥り易い危険

1. 完ぺき主義: 自分の歩みの全てにおいて完璧な実践を追い求める。到達不能な目標を作り上げて、それに届かない自分に絶望するという危険。
2. 律法主義: 具体的な行動を自ら細かく規定する。人格的關係を数量に置き換える危険。
3. 審判主義: 自分を厳しく律し、他に対しても批判的となる。批判的な思いは、増幅してしまう危険。
4. 私生活主義: 聖を自分の内面に限定する。これにより自分意識が強くなりすぎる危険。
5. 内省主義: 過度に自己吟味する。「うつ」的な自己不信に陥る危険。
6. 自己欺瞞: 自分の殻に閉じこもる。罪を正当化する危険。
<これらは、パリサイ人の陥った罠と共通: ①行動重視; ②外側に表れるもので評価; ③努力と厳しさの重視; ④利益と功積の追求>

B. 危険を克服する道

1. 主への愛に生きる。「神の愛に自分を完全に明け渡し、御心への喜び溢れる服従による親密なる愛の關係を、神は本当に求めておられる。」

2. 転機と過程についてバランスを保つ：自己中心を十字架に付けてしまう「転機」と、神に喜ばれる行動を追い求める「過程」の双方が大切。

C. 必要な4つのステップ

1. 自分の不可能性を頷く
2. 神の愛に応答して生きる
3. 罪と誘惑を区別する：誘惑を受けた時、それを増殖させることは危険。ただ、誘惑を感じたこと自体に罪意識を持つことはない。聖霊に委ねて勝利を得よう。
4. 正直な自己認識：ありのままの自分を認めつつ、聖霊の可能性を信じてより頼もう。

- 付. 聖は自分自身のためというよりも、周りの人を活かすためであることを覚えよう。

“Holiness unto the Lord” is our watchword and song;
“Holiness unto the Lord” as we’ re marching along.
Sing it, shout it, loud and long;
“Holiness unto the Lord” now and forever.